

# ■ ■ 化学療法投与計画書《DTX療法》■ ■

実施日

患者番号	性別	身長	cm	
カナ氏名	生年月日	体重	kg	指示医
患者氏名	年齢	体表面積	m <sup>2</sup>	

Rp) ドセタキセル(ワンタキソテール) 60 mg/m<sup>2</sup> day 1 3週毎

レジメンコメント1

レジメンコメント2

本管①
生理食塩液 100mL 1 瓶

側管① 生理食塩液開始時15分かけて
アロキシ点滴静注バッグ0.75mg 50mL 1 袋 デカドロン注射液1.65mg 4 管



側管②
大塚生食注 250mL 1 袋 ドセタキセル mg ドセタキセル点滴静注80mg ドセタキセル点滴静注20mg

- 内服  
デカドロン錠4mg 2錠(8mg) 2×/day  
day2(朝)～day3(昼) [2日間]

## <実施時の注意>

漏出時:漏出時は直ちに投与を中止し、ステロイドの局注、ステロイドの外用剤で対処する。  
調製する際は21G針が推奨される(19G以上の太い注射針を使用した場合にゴム栓のコアリングの報告あり)

## <用量規制因子>

投与前に白血球数4000/mm<sup>3</sup>以上、血小板数10万/mm<sup>3</sup>以上、ヘモグロビン8.0g/dL以上、AST/ALT/ALP/LDH施設正常値上限の1.5倍未満、ビリルビン施設正常値上限の1.5倍未満、クレアチニン施設正常値上限の1.5倍未満、クレアチニン・クリアランス60mL/min以上が望ましい。

好中球数2000/mm<sup>3</sup>未満の場合、回復するまで投与を延期する。

肝機能が低下している場合、骨髄抑制が増強されるおそれがあるため投与量を慎重に考慮する必要がある。  
減量スケールは、60→50mg/m<sup>2</sup>とする。(50mg/m<sup>2</sup>以下は休薬)

## <注意すべき副作用>

- 食欲不振、吐き気 ●口内炎 ●手足のしびれ ●脱毛(頭髪、まつ毛、眉毛など) ●白血球減少  
●赤血球減少(貧血) ●血小板減少 ●肝機能低下 ●手や足のむくみ ●爪の変化